

外為マンスリービューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/03/01

日銀と米FOMCを睨んだ展開に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	日米金融政策イベントがカギに 予想レンジ: 110.000~ 116.200円	2-3
<u>カナダ/円</u>	➡	原油安が重石に 予想レンジ: 78.800~86.500円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



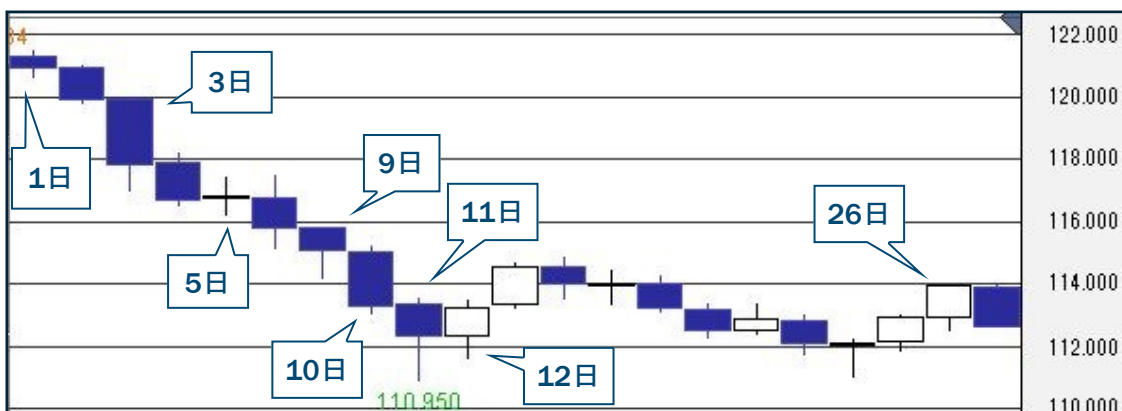
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 2月の推移

USD/JPY

2月のドル/円相場は110.950～121.484円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約7.0%の大幅な下落(ドル安・円高)となった。1月末に決定された日銀の追加緩和(マイナス金利)による円安・ドル高の効果は、わずか3営業日目にして剥げ落ちる格好となり、上旬から下落。原油安・株安のリスク回避相場の中で、11日には2014年10月31日以来となる110.950円まで下値を切り下げた。その後は、原油安が一服した事や、米経済に対する過度に悲観的な見方が後退した事から、ドル安・円高に修正の動きが見られたが115円目前で上値を抑えられた。



四本値

OPEN	121.304
HIGH	121.484
LOW	110.950
CLOSE	112.655

1日	米1月ISM製造業景況指数が48.2と予想(48.4)に届かず、4カ月連続で好不況の分岐点である50を下回ると120.60円台まで下落した。なお、米連邦準備理事会(FRB)のフィッシャー副議長は、「利上げは漸進的なものになるだろう」「世界経済の成長減速が米見通しに影響を与える可能性がある」「低インフレは幾分長引く可能性が高い」などと発言した。
3日	米1月ADP全国雇用者数は前月比+20.5万人と予想(+19.3万人)を上回るも、ドル買いは一時的。ダドリー米NY連銀総裁が「より強い確信を持って、金融環境は昨年12月のFOMC時点よりも著しくひっ迫したと言える」「こうした状況が3月の会合まで継続するようなら、金融政策決定を行う上で考慮する必要がある」などと発言した事や、米1月ISM非製造業景況指数が53.5と予想(55.1)を下回り、2014年2月以来の低水準となった事からドル売りに傾いた。
5日	米1月雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比15.1万人増と予想(19.0万人増)に届かなかった一方、失業率は4.9%と予想(5.0%)を下回って改善。また、平均時給は前月比+0.5%と予想(+0.3%)を上回る伸びを示した。発表直後こそ、非農業部門雇用者数の結果に反応して一時116.267円まで下落したが、失業率が2008年2月以来の低水準に改善した事や賃金の増加を見直す形で反転。米景気に対する過度に悲観的な見方が後退する中で117.423円まで切り返した。
9日	ドイツ銀行の経営不安などから大幅に下落した前日の欧米株価に影響されて日本株も寄り付きから大幅安となった。これを受けて本邦10年債利回りが史上初のマイナス圏に突入するなど、リスク回避の動きが強まる中、円買いが加速した。
10日	イエレン米FRB議長が議会証言において、米経済の先行きに楽観的な見通しを示しながらも、海外経済情勢(とりわけ中国)が米成長のリスクになり得ると指摘。総じてハト派的な証言と受け止められ、ドル売りに傾いた。
11日	東京市場が建国記念の日の祝日で休場、中国が旧正月のため休場となる中、投機筋がドル売り・円買いを仕掛けるとストップロス巻き込みながら急落し、欧州市場では一時110.950円まで下値を切り下げた。ただ、その後は突如113円台に急反発するなど、本邦通貨当局の介入観測を絡めて激しい値動きを示現した。
12日	日経平均が大幅安(終値760円安)となる中、一時111.60円台まで下落したが、米1月小売売上高が前月比+0.2%と予想(+0.1%)を上回り、前月分も-0.1%から+0.2%へ上方修正されると113円台を回復。ドイツ銀行が、利払いへの懸念が持たれていた一部の社債を買い戻す方針を示した事や、協調減産への期待から原油価格が反発した事も支えとなった。
26日	米10-12月期国内総生産(GDP)・改定値が、前期比年率+1.0%と速報値(+0.7%)から予想(+0.4%)に反して上方修正されるとドル買いが強まった。また、米1月個人消費支出(PCE)は前月比+0.5%、PCEコアデフレーターは前年比+1.7%と、いずれも予想(+0.3%、+1.5%)を上回った。これらを受けて米長期金利が一段と上昇する中、114円目前まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.7776%
HIGH	0.8172%
LOW	0.5760%
CLOSE	0.7737%

米10年債利回

OPEN	1.9296%
HIGH	1.9642%
LOW	1.5286%
CLOSE	1.7347%

日経平均

OPEN	17699.60
HIGH	17905.37
LOW	14865.77
CLOSE	16026.76

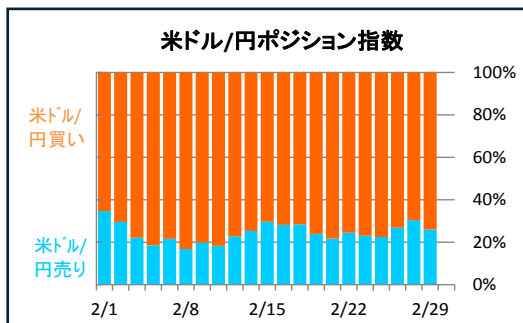
NYダウ平均

OPEN	16453.63
HIGH	16795.98
LOW	15503.01
CLOSE	16516.50

2月のポジション動向

3月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)



- ・2月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・2月米ADP全国雇用者数(2日)
- ・2月米ISM非製造業景況指数(3日)
- ・2月米雇用統計(4日)
- ・1月日本国際収支(8日)
- ・10-12月期日本GDP・二次速報(8日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・2月米小売売上高(15日)
- ・2月米消費者物価指数(16日)
- ・2月米鉱工業生産(16日)
- ・米FOMC(15-16日)
- ・2月日本消費者物価指数(25日)
- ・10-12月期米GDP・確報値(25日)
- ・主要国株価・国際商品価格

3月の見通し

3月のドル/円は、2月前半の下落ぶりと後半の戻りの鈍さを見せ付けられた後だけに、堅調地合いを予想するのは難しい。心理的な節目であり、日足チャート上のWボトムネックラインとなる重要ポイントでもある115.00円の上抜けは困難を伴うだろう(上抜けできれば、以前の値支支持であった116円台前半までの戻りが見込めるが)。4日の米2月雇用統計でこの水準を突破できなければ、110円に向けて反落局面に入る可能性が排除できなくなりそうだ。

日銀が14-15日の政策決定会合で追加緩和を見送れば円買い材料となる可能性もある。日銀が動かない事を、市場が「動けない」と解釈する可能性があるためだ。日銀は、2月末のG20にて円安誘導に釘を刺されたと考えられており、円売り介入はおろか追加緩和にも動きにくくなったとの見方が強い。

ただし、15-16日に行われる米連邦公開市場委員会(FOMC)は、どちらかといえばドルを押し上げる方向に作用しそうだ。FOMCがこのタイミングで追加利上げに踏み切る可能性は極めて低く、同時に公表する政策金利見通しは幾分下方修正される事になる。ただ、これらはいずれも織り込み済みであり、イエレン米連邦公開市場委員会(FRB)議長は、米経済の先行きに楽観的な見解を示すとともに利上げスタンスを維持すると見られる。市場の利上げ先送り観測に修正が入る可能性もあるだろう。(神田)

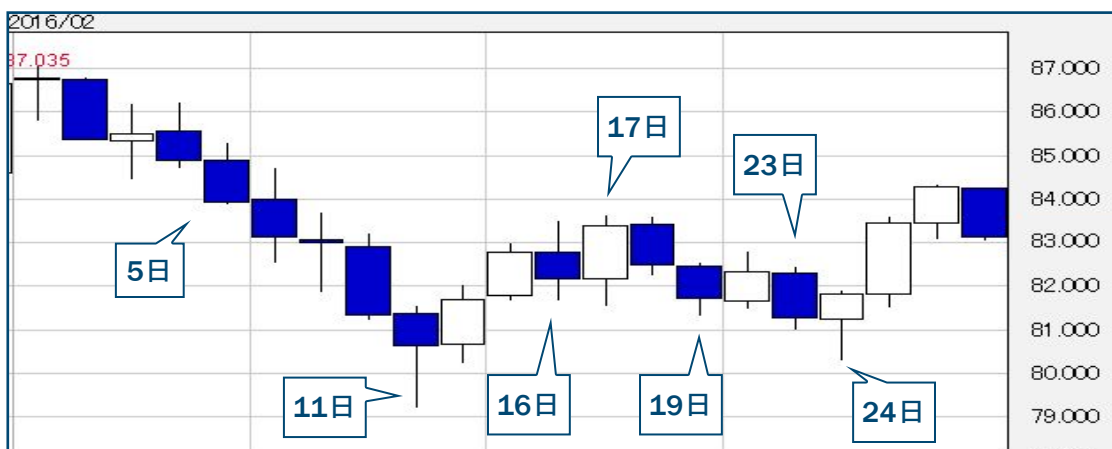
予想レンジ(110.000-116.200円)

カナダ/円 2月の推移

CAD/JPY

2月のカナダ/円相場は79.257～87.035円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.0%の大幅下落(カナダドル安・円高)となった。

1月末の日銀によるマイナス金利導入の影響を受けた円売りによりカナダ/円は高く始まるも、その後はNY原油が軟調に推移し、それに反応して主要国株価が下落すると、11日に79.257円まで下落した。その後は石油産出国による協調減産観測に左右されるも、NY原油相場が持ち直した事や、ドル/カナダ相場が下落(=カナダ高)した事から、カナダ/円は26日に84.331円まで反発した。ドル/カナダが月の安値圏で取引を終えたのに対し、カナダ/円が戻しきれなかった背景として、ドル/円相場で円高が進んだ事が挙げられる。



四本値

OPEN	86.805
HIGH	87.035
LOW	79.257
CLOSE	83.163

5日	加1月雇用統計は失業率が7.2%、就業者数0.57万人減と予想(7.1%、0.55万人増)より弱い結果となり、カナダ/円は下落。NY原油やNYダウ平均が下落した事も重石となり、引け間際に83.928円まで一段安となった。
11日	時間外のNY原油先物が軟調に推移した事や、欧州株価が軒並み下落した事から、リスク回避の円買いが活発してカナダ/円が79.257円まで下落。その後、ドル/円の急反発に伴って80.955円まで反発した。一部で本邦政府による円売り介入が疑われるも、日本政府筋は「介入の有無にはコメントしない」と述べた。
16日	カタールのエネルギー相が「ロシア・サウジの石油相らとの会合で、生産を1月の水準で凍結する事で合意」と発言した事が報じられるも、「他の主要産油国が追随する事が合意の条件」である事や、減産期待に反して「生産量維持」となった事に失望して、NY原油価格が下落。カナダ/円は81.703円まで下落した。
17日	イランのザンギャネ石油相が「原油相場安定化に向けた措置を支援」「石油輸出国機構(OPEC)と非加盟国間での協力を支援」などとの見解を示すと、NY原油が上昇。カナダ/円は83.626円まで連れ高となった。
19日	加12月小売売上高が前月比-2.2%、自動車を除くと同-1.6%と予想(-0.9%、-0.7%)を大きく下回った。NY原油が一時29.05ドルまで下押しした事も重石となり、カナダ/円はやや値を下げた。なお、加1月消費者物価指数は前年比+2.0%(予想:+1.8%)であった。
23日	イランのザンギャネ石油相が、サウジアラビアとロシアの増産抑制案について「非現実な要請」との見解を示した事で、産油国の協調体制への懸念が強まり、NY原油先物が下落。カナダ/円は81.027円まで下落した。
24日	原油安・欧米株安が重石となり、カナダ/円は80.350円まで下落。しかし、米EIA週間在庫統計においてガソリン在庫が市場予想以上に減少した事が明らかとなり、その後NY原油が上昇すると、81.913円まで反発した。原油高を受けてNYダウ平均が反発した事も追い風となった。

加10年債利回り

OPEN	1.221%
HIGH	1.247%
LOW	0.908%
CLOSE	1.191%

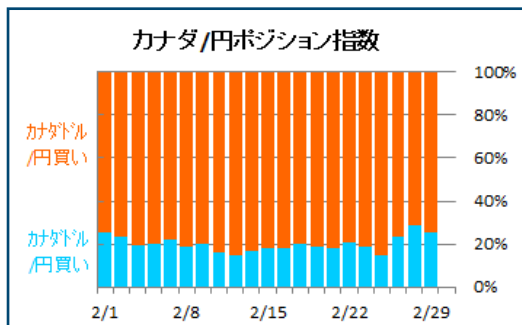
N Y 原油

OPEN	33.83
HIGH	34.69
LOW	26.05
CLOSE	33.75

NYダウ平均

OPEN	16453.63
HIGH	16795.98
LOW	15503.01
CLOSE	16516.50

2月のポジション動向



3月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・2月中国財新/製造業PMI(1日)
- ・12月 10-12月期加GDP(1日)
- ・2月米雇用統計(4日)
- ・10-12月期日本GDP・2次速報値(8日)
- ・2月中国貿易収支(8日)
- ・加中銀政策金利発表(9日)
- ・2月加雇用統計(11日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・2月米小売売上高(15日)
- ・米FOMC(15-16日)
- ・2月米消費者物価指数(16日)
- ・2月日本貿易収支(17日)
- ・2月加消費者物価指数(18日)
- ・1月加小売売上高(18日)
- ・1月加GDP(31日)
- ・原油相場、主要国株価

3月の見通し

3月のカナダ/円相場は、引き続き原油相場の動向が焦点となろう。カナダは原油が主力輸出品であり、原油価格の低迷はカナダ経済にとって悪材料である。2月は主要産出国による協調減産観測から原油価格が上昇する場面が見られるも、今年1月に経済制裁が解除されたイランは増産姿勢を崩していない事から、その実現性は低そうだ。米景気に対する不透明感が漂っている事もあり、原油相場が上昇する材料が出なければカナダ/円相場は引き続き上値の重い展開が見込まれる。

今月、カナダで金融政策の発表が予定されている。現時点での事前予想は政策金利の据え置きがコンセンサスとなっている。ただ、先月発表された小売売上高が予想を大きく下回った事などから、仮に政策金利を据え置いたとしても声明文が緩和スタンスを取り続ける可能性がある。声明文の内容にも注意が必要だろう。

なお、今月は本邦の年度末決算に当たるため、円需給主導で相場が荒れる可能性がある。本邦発の経済イベントでは、2月貿易収支や日銀金融政策決定会合に注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 78.800~86.500円)